

# 就学前教育連携通信

令和3年3月22日  
 中野区教育委員会指導室  
 就学前教育推進担当  
 指導主事 村松 香苗  
 主 査 佐藤 美紀  
 推進員 大見 由美  
 電話 03(3228)8738

## <第4回 保幼小中連携教育検討委員会 3月8日>

令和2年度第4回保幼小中連携教育検討委員会を開催しました。当日は、前回の連携教育検討委員会以降集約された意見を基に、乳幼児期から中学校までの15年間の学びの連続性に着目した「学力向上（知）」「心の教育（徳）」「体力向上（体）」「特別支援教育」の4つの視点による保幼小中連携分科会の中間報告がありました。今年度と来年度は取組の導入期にあたり、まず今年度、各分科会の基本的な考え方、課題の抽出、検討の視点、課題解決のために考えられる取組（手だて）をまとめました。

各分科会の目指す子ども像は、中野区教育ビジョン（第3次）における目標及び目指す姿につながっています。

### <学力向上分科会における目指す子ども像>

- 課題解決に向けて、うまくいなくても粘り強く取り組む子ども
- もっとよい方法や違う考え方はないか、追求しようとする子ども
- 図や表などを活用して、自分の考え方を表現し、人に伝えることができる子ども
- 人と共に考えることで、自分の考えを深めたり、新たな考えを生み出したりできる子ども
- 身に付けた知識や技能を、生活の中で活用しようとする子ども

### <中野区教育ビジョン（第3次）における目標及び目指す姿>

- 目標Ⅰ** 人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている。
- 目指す姿** 子どもたちは、遊びや集団生活の中で豊かな体験を通じて、人と関わる力や学びに向かう力や学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育み、生きる力の基礎を身に付けている。
- 目標Ⅱ** 子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている。
- 目指す姿** 子どもたちは、基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、更にこれらを活用する学習を通して、自ら学び自ら考える力や、思考力・判断力・表現力などを身に付けている。

### <心の教育分科会における目指す子ども像>

- 自分が大好きと思える、知・徳・体のバランスのとれた子ども
- 自分も大事、友達も大事にして、互いの個性を認め合える子ども
- コミュニケーションを楽しんで、家庭や地域で自分を表現できる子ども

### <中野区教育ビジョン（第3次）における目標及び目指す姿>

- 目標Ⅴ** 保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちが生き生きと学んでいる。
- 目指す姿** ①幼稚園・保育施設等、小・中学校が教育内容や指導方法等について、相互に理解を深め、学びの連続性を確保した教育を展開し、子どもたちが円滑に次の学校段階へ進学できてる。  
 ②子どもたちは、家庭や地域の協力で充実した教育を受け、「生きる力」を育んでいる。

### <体力向上分科会における目指す子ども像>

- 自分の心と体を理解し、大切にしている子ども
- 基本的な生活習慣が身に付いている子ども
- 夢中になって運動や遊びに取り組む子ども
- 自分なりの楽しさや喜びを見いだせる子ども

### <中野区教育ビジョン（第3次）における目標及び目指す姿>

#### 目標Ⅳ

子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている。

#### 目指す姿

- ①子どもたちは、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠などの成長期に必要な基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康的な生活を送っている。
- ②子どもたちは、外遊びや運動の楽しさに気づき、日常的に身体を動かすことで基礎体力が向上している。

### <特別支援教育分科会における目指す子ども像>

- 「できた」満足感や互いの個性や違いを理解し、見通しをもって行動できる子ども
- 自立・尊重・成長する子ども
- 困っていることを自ら伝えることができる子ども
- 自分も相手も好きになれる子ども
- お互いを助け合うことができる子ども

### <中野区教育ビジョン（第3次）における目標及び目指す姿>

#### 目標Ⅰ

人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている。

#### 目指す姿

特別な支援が必要な子どもたちが、安心して幼稚園や保育施設等の生活を送れる環境が整備されている。

#### 目標Ⅱ

子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている。

#### 目指す姿

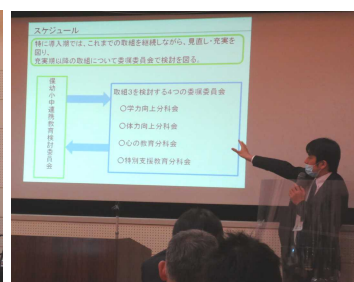
特別な支援を必要とする子どもたちを含めた全ての子どもたちが、個々の教育的ニーズに応じた教育と、成長過程に応じた一貫した支援を受け、その可能性を伸ばしている。

「保幼小中連携教育検討委員会中間報告」は、後日、各就学前教育・保育施設、小学校、中学校にお配りします。

また、次年度の4つの視点による保幼小中連携分科会は、保幼小中連携教育検討委員会で全体的な計画や進行管理を行いながら、それぞれの分科会の課題を焦点化し、令和4年度から開始する学校での連携研究の在り方について、計画を立案・見直しを行っていきます。



会議の最後に、委員の皆様から一年間保幼小中連携教育検討会に携わった感想や、今後の連携の在り方についてのご意見をいただきました。



3月9日（火）の教務主任会の中で、心の教育分科会担当の鎌形指導主事より、4つの視点による保幼小中連携分科会の中間報告がありました。

## <令和2年度 合同研究 最終回 1月21日>

今年度最後の合同研究会は、両部会の研究員が互いの研究の成果を報告し合う予定でしたが、緊急事態宣言に鑑み研究員は集合せず、これまでの研究成果のまとめを提出することで参加といたしました。

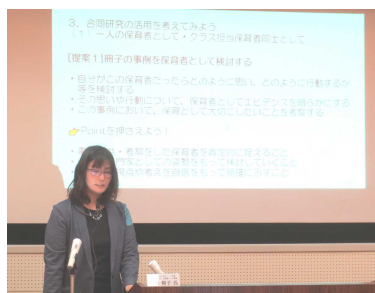
そして、講師の先生方をお呼びし、今年度の研究成果を園内でより効果的に実施する具体的な方法について事務局による取材を行いました。さらに、研究員から講師への質問事項についても、一人ひとりに丁寧な回答をいただきました。これらの取材内容は、動画や資料にまとめて、研究員所属園に還元する予定です。この1年間の学びをぜひ自園の保育に活かしてほしいと願っています。このような状況下においても、学びの場へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。

なお、「令和2年度 合同研究報告書」の冊子については、今年度より中野区全ての就学前教育・保育施設にデータとして送信する予定です。各園におかれましても、ご活用いただければ幸いです。

### <教育・保育部会研究員～研究に参加して気付いたこと・学んだこと～>

・園も経験年数も多種多様な保育者が集う中、それぞれが事例をもちより討議することで、様々な読み取り方を知る機会になった。また、子どもに対するまっすぐな思いは共通であることを感じ、改めて保育は子どもの育ちを間近に見られる素晴らしい営みだと思った。

・保育場を事例に書き起こす上で、「自分の気持ちを正直に書くこと」によって、気持ちが楽になった。困ったり、苛立ったりした場面を担任一人で抱え込まずに、同僚や上司に聞いてもらうことで気持ちが整理されたり、助言を受けて次の手だてのヒントをもらったりすることができた。また、話すことで、園全体で子どもたちを育てる意識にもつながることを学んだ。



帝京平成大学 児童学科講師  
小山 朝子先生

・事例作成については、書き手として、読み手に伝わるような発信に課題があると感じたので、今後は状況を丁寧に説明できるように心がけたい。

・講師や他園の保育者と事例を見合うことで、見る人により感じ方も様々であることがわかり、自分では気付かなかった点も学ぶことができた。また、他園の保育者の事例から共感する点や疑問に思う点などに気付き、保育を深く掘り下げることができた。本当に有意義な研究会だった。ぜひまた参加したい。

### <運動遊び部会研究員～研究に参加して気付いたこと・学んだこと～>

・今年度のコロナ禍の対応の中で落ちていた子どもたちの体力を、楽しく運動遊びをしながらどのように取り戻していくかということを改めて考える機会となった。

・毎回初めて体験する遊びを学ぶことができ有意義だった。座学だけでなく遊びの実践をする時間が多かったので、とても楽しく参加することができた。また、他園の保育者との情報交換の中で、自園とは違う遊び方や環境づくりの工夫を学び、参考になることばかりだった。

・縄やボール、新聞紙など1つの道具でも様々な使い方があることを学んだ。保育者のアイデア次第で遊びが広がることが分かった。目的に合わせて工夫して遊べるようにしていきたい。

・自分自身が運動遊びをしてたくさん体を動かすことで、開放的な気持ちになることが分かった。運動遊びをすることが、いかに気持ちを発散できるかということに気付くとともに、動きの難易度やどのようにしたら面白くなるかといった点にも気付くことができた。

・合同研究に参加し、保育者のアイデアで遊びがどんどん広がっていくことを実感した。子どもたちにこの動きを経験して欲しいと思ったときに、「この遊具を使ったら、どのような適応の仕方があるか？」というように考えながら、今後も様々な工夫を積極的に取り入れていきたい。



白百合女子大学  
人間総合学部准教授  
石沢 順子先生

## <令和3年度合同研究の内容について>

### <教育・保育部会>

乳幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。このため、保育者は園児との信頼関係を十分築き、園児が安心して身近な環境に主体的に関わり、その活動が豊かに展開されるように努めなければなりません。

新しい生活様式の中で、具体的にはどのような取組が進められたのかを分析し、その課題と今後の展開について着目した研究を行い、参加者が自園の教育・保育に活かすとともに、資料として作成し、区内に広く周知します。

### <運動遊び部会>

新しい生活様式の中で実現可能な運動遊びに着目し、「身近な遊具を利用した遊び（ボール遊び）」や「多様な動きが経験できる遊び（鬼遊び）」についての研究を行い、参加者が自園の教育・保育に活かすとともに、資料として作成し、区内に広く周知します。

来年度は特に小学校につながる運動遊びを中心に学び合う予定のため、幼児（3～5歳児）担当者向けの内容です。（ご承知の上で、乳児担当者が自園の保育に活かすため、自身のスキル向上のために参加を希望することは可能です。）

中野区の合同研究は、「教育・保育部会」と「運動遊び部会」に分かれていますが、どちらの部会においても、就学前の教育・保育において育みたい子どもたちの資質・能力（3本の柱）について考え、研究することが基本となっています。そこで来年度は、これまで以上に2つの部会が連携することになりました。具体的には、5月から10月までの全5回の開催予定の中で、第1回と第5回は両部会を合同開催します。第1回に、両部会の講師から教育・保育に関する基本的な考え方や取組の方向性について講義を受けることで、お互いの研究の位置付けを理解し、第5回で年間の取組について報告し合います。自身の研究を深める力だけでなく、限られた時間の中で課題をまとめる力や発表する力、質問する力などが、より一層高まることが期待されます。

具体的な参加のご案内は、新年度になりましたら各園に発送いたします。ぜひ次年度も、中野区の子どもたちのために保育の質の向上を目指して、合同研究会への参加をお待ちしています。

## <別冊 就学前教育連携通信（令和3年度版）について>



来年度4月から、第四中学校と第八中学校を統合し、明和中学校が開校します。それに伴い中学校区が明和中学校区として変更になります。また、南台小学校は旧みなみの小学校の位置で、中野第一小学校は旧桃園小学校の位置で開校されます。このことを反映し、別冊 就学前教育連携通信（令和3年度版）を作成しました。これまで発行した別冊の、特に地図のページは、「地区の連携や防災に関する情報として施設内に掲示するのに役立つ。」などの感想をいただいております。

新年度、各施設にPDFでデータ送信しますので、ご活用ください。

今年度の就学前教育連携通信は、これが最終号となりました。次年度も、連携に関する内容を様々お届けします。ご協力いただきました小・中学校、幼稚園、保育施設の皆様、ありがとうございました。